

「学友会からのお知らせ」

1. 第 2610 地区米山学友会 2023-2024 年度の行事及びスケジュールのお知らせ

米山学友、現役奨学生とロータリアンとのより一層親睦を深めるため、当会は国際文化交流イベントや社会奉仕活動を積極的に企画して実施しようと考えております。2023 年度これからの活動計画は、下記に記載いたします。

皆様におかれましては、引き続き当会へのご理解ご協力の程宜しくお願い申し上げますとともに、皆様益々のご発展をお祈り申し上げます。

日付	行事	場所
2024 年 3 月 16 日	米山学友会交流会	高岡市
2024 年 4 月 3 日	第 9 回米山学友会オンライン役員会	オンライン
2024 年 4 月 6 日	米山奨学生オリエンテーション&懇親会	ホテル金沢
2024 年 5 月 11-12 日	みんなの交流会&奉仕活動	未定

*当会の役員会は、毎月 1 回で開催しています。詳しいスケジュールについては、学友会 Facebook ページをご覧ください。

2. 第 2610 地区米山学友会 2022-2024 年度役員会の役員成員

役名	名前	出身	地域	世話クラブ
会長	李逸琰 (リ イイエン)	中国	石川	富山シティー
副会長	韓佳 (カン カ)	中国	石川	中能登まほろば
副会長	バトスフ ゴルポー	モンゴル	神奈川	相模原西
会計	金三英 (キムサムヨン)	韓国	石川	河北南
監事、次期会長	範雋偉 (ハンジュンイ)	中国	富山	小矢部

3. 学友会ニュース



2024 年 2 月 17 日 ホテル金沢 終了式 記念写真

2024 年 2 月 17 日にホテル金沢で、第 2610 地区米山記念奨学会は、2023 学年度 3 月奨学期間終了式を開催しました。終了式には、地区ガバナー原勉様から開会のご挨拶をいただき、原勉様から終了者の皆さんへ奨学生サティフィケートを授与し、カウンセラーの皆さんへ感謝状を贈呈しました。その後、「奨学生の声」のセッションが行われ、終了者の皆さんや継続する奨学生の皆さんが、自席やステージ上で挨拶や今後の進路について発言しました。米山奨学会部門カウンセラー松本耕作様から総評をいただき、最後に、地区米山記念奨学会委員長嶋田登様

から閉会のご挨拶をいただきました。閉会の後、地区米山学友会の入会式が行われました。地区米山学友会の範から学友会についての説明を行い、終了者の皆さんに米山学友会入会申込書を記入していただき、入会費もお預かりました。

皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。
進学予定の終了者の皆さん、おめでとうございます。夢に向かってさらなる研究を続けることを決めた皆さんを心から応援します。これまでの学生生活とはまた違い、自主性が重んじられる大学院で自分らしく活躍してください。就職予定の終了者の皆さん、卒業おめでとうございます。今までの学生生活で学んだすべては社会人になっても役に立つことだらけです。離れて暮らすのは寂しいけれど、何かあったらいつでも相談してください。応援します。

終了者の皆さん、是非母国と日本の架け橋になって、今後のご活躍をお祈り申し上げます。

どうぞよろしくお祈りいたします。

範 雋偉 (中国・小矢部 RC)

第 2610 地区米山記念奨学会委員会次期委員長からのメッセージ

2024-2025 年度委員長 松崎 秀規 (日本・金沢 RC)

4 月からロータリー米山記念奨学会の委員長として新たな役目を担うことになりました私は、この重要な役職に就任するにあたり、皆さんと共に進むこの新しい旅に対し、大きな期待を抱いています。

まず初めに、2024-25 年度米山記念奨学生になられた皆様、心から歓迎いたします。ここは、様々な文化背景を持つ皆さんが一堂に会し、知的好奇心と個人的成長を育む米山記念奨学生場です。世界各地から富山・石川の大学へと多くの希望を持って来られた皆さんに、深い敬意を表します。

奨学生としての日々は、新しい発見や挑戦に溢れています。ロータリーファミリーとしての役割に適應することは難しいかもしれませんが、これらの経験が皆さんを成長させ、未来に渡って価値あるものになると確信しています。単にお世話クラブに所属するだけでなく、自己を再発見し、新しい視点を獲得する機会です。

当委員会の使命は、皆さんがお世話クラブでの活動や奨学生同士の交流を通じて充実した経験を積み、奨学期間を無事に終えることをサポートすることです。私たちは、卓話訪問、Web スピーチトレーニング、文化交流イベントなど、様々な支援を提供しています。

奨学生の皆さんには、この貴重な機会を最大限に活かしていただきたいと思います。新しい友情を築き、異文化を体験し、個人として成長していただければと思います。何か困ったことがあれば、地区委員会、各クラブ、カウンセラー、学友会 (奨学生の OB 会) に遠慮なく声をかけてください。私たちは、皆さんが安心して学び、奨学生としての時間を充実させるためにここにいます。

最終的に、この奨学期間が単なる経済的支援を超え、皆さんの人生を豊かにする経験になることを願っています。新しいロータリーファミリーとしての文化を学び、友情を深め、知識を蓄え、将来の夢を形作ることが、皆さん一人一人の素晴らしい未来の基盤になることを信じています。

皆さんの奨学生生活がいり多いものになるよう、全力でサポートします。この素晴らしい経験の一部となれることを光栄に思います。4 月から、一緒に素晴らしい一年を作っていきましょう。

芸術の旅、ロータリーの贈り物

2023 学年度終了者 晁男 (中国・金沢 RC)



2023 年 10 月 22 日

野々市市文化会館フォルテ

地区大会 記念写真

この 1 年間は私にとって大きな成長の機会でした。日本の文化や習慣に触れる中で、異文化理解が深まり、自分自身も柔軟性を身につけることができました。また、ロータリークラブを通じて多くの素晴らしい人々と出会い、国際的な視野を広げることができました。特に、ロータリアンの方々から受けた温かいサポートは、私の心を豊かにしました。

日本の美しい風景や伝統文化は、私の芸術に新たなインスピレーションを与えました。日本の芸術や工芸品、そして人々の暖かさは、私の創造力を刺激し、新しい表現の手段を模索する原動力となりました。また、ロータリーの理念に触れることで、社会貢献や国際協力の重要性を再認識し、それを芸術を通じて表現することの意義を理解しました。

この奨学金を受けることができたことに深く感謝しています。ロータリークラブの皆様の温かい支援と励ましは、私の留学生生活を支える大きな力となりました。特に、ロータリーの理念に基づいた心の通った支援は、私の心を温かく包み込んでくれました。

また、日本の文化や人々との交流を通じて、新たな友人やメンターと出会うことができたことにも感謝しています。彼らとの交流は、私の留学生生活をより豊かなものにし、新たな視点や価値観を学ぶ機会となりました。

私の夢は、芸術を通じて人々の心を触れ、共感を生むことです。日本での経験を活かし、国際的な視野を持ちながら、世界中の人々とつながり、文化やアイデンティティをテーマにした作品を制作していきたいと考えています。また、地域や社会に貢献する活動にも積極的に参加し、芸術を通じて社会的な問題に対する意識を高めることも目指しています。ロータリーの理念に共鳴し、世界の平和と発展に貢献する一員として、精力的に活動していきたいと思っています。

米山奨学生の声



辻家庭園 2023.9.29

大学院に進学する理由は夢である研究職につきたいからです。ロータリーの奨学金のおかげで、4年次の期間に加え、2年間の大学院の研究活動の間に自分なりに精一杯の専門知識を吸収することができました。特に、大学院の時、発表会や学会等において出会った専門な方々と学生との交流によって自分の可能性や周囲の人々のサポートのことに気づき、何事にも自信豊かでチャレンジできるようになりました。さらに、ロータリでの毎月の例会および学友によるイベントで、価値観が広く変わりました。留学前には自分にも当たり前ということに考えることなく、いろいろな背景を持つ方々との会話を交わすことで自分の習慣を見なおすことができました。

来春に、研究者として就くようになります。大学院で培ってきた知識を活かして、未来の人々のために研究開発をしていきたいと考えております。また、現在持っている素敵な人間関係に加え、新しい人々に会って輪を広げていきたいと思っております。今までの2年間貴重な経験を体験させていただき、たくさんお世話になったロータリアンに感謝申し上げます。

モハマド・アキド・ナキウディン・ビン・ロバンディ
(マレーシア・金沢西 RC)

今年で富山大学人文社会芸術総合研究科修士課程を卒業する奨学生の李開欣と申します。過去の1年間は富山みらいクラブに所属していました。最初はやや緊張していましたが、皆さまから親切に話をかけられて、だんだんこの集団の中に溶け込んでいたと思います。ここでは、富山みらいクラブの皆様に感謝しかございません。例会だけではなく、懇親会やお月見会などにも参加させていただくことで、伝統的な日本文化に触れられ



富山県太閤山ランド 2023.9.16

る機会をいただきました。本当に面白く、充実した1年間を過ごしました。ロータリー米山記念奨学生になったはじめの様子を振り返ると、ずっと成長してきたと思います。

将来については、修士課程を卒業後は博士課程に進学する予定です。今後も常に米山奨学生の責任を持って、国際平和を願って貢献したいため、米山終了者としても学友会に参加し、まだ活動を続けたいと考えております。

李 開欣 (中国・富山みらい RC)

皆さん、こんにちは。白山石川ロータリークラブ奨学生の温以勤です。私は奨学生になってから変わったこと、ありがたいこと、感謝していることがたくさんあります。まず、知識やスキルの面での成長はもちろんですが、最も大きな変化は自己理解と自信の向上です。奨学生としての経験を通じて、自分の強みや弱みを知り、それを受け入れることができました。これが私の人間性をより豊かにし、他者との協力においても自信を持つことができるようになりました。

さらに、奨学会の仲間たちとのつながりは、私にとって非常に貴重なものとなりました。異なるバックグラウンドや視点を持つ仲間と共に学び、成長することは、個々の価値観を広げ、対話を通じて多くのことを学ぶ機会を提供してくれました。感謝の気持ちを忘れずに、その恩返しとして、社会に貢献していきたいと考えています。

最後になりますが、この2年間は皆様大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。これからも、新たな挑戦に果敢に取り組み、夢を追い求める姿勢を忘れずにいたいと思います。本当にありがとうございました。

温 以勤 (台湾・白山石川 RC)



野々市市文化会館フォルテ

2023.10.22

振り返ってみると、日本へ留学することを決意して渡航しようとするとき、ちょうどコロナ禍の中であるため、家族も私自

身もすごく不安を抱えていました。来日して最初の1年間は、学校の近くにあるコンビニでアルバイトしながら少し厳しい留学生活を送ってきました。そのため、学校から米山奨学生の候補者として推薦された時、私は本当にラッキーな人だと思いました。ですから、奨学生になってから、奨学金であれ、例会や活動であれ、非常に大切にきました。

私自身は異文化に興味をもち、体験やチャレンジするのは好きです。特に、留学とは勉強することだけではなく、その国の文化や慣習などを学び、体験するのも大事だという考え方を私はずっと持っています。ですから、米山奨学生としているこの2年間、私にとって日本の文化と社会を知られる窓口ともなりました。ここで知り合いになった方々、学んだことなどすべて記憶に残したいと思います。

これから、卒業して日本を離れ、また新たな身分で生活を迎えることとなりますが、米山奨学生としての誇りもち、奉仕の精神を心に刻んで、自分なりの貢献をできるように頑張りたいです。

彭 毛措 (パクモツォ) (中国・金沢香林坊 RC)



ホテル金沢 2023.12.7

米山記念奨学会様、修士課程でのご支援を誠にありがとうございました。過去2年間はそれほど長くもなく、短くもなく、ちょうど良い時間でした。奨学金は財政面の支援だけでなく、自分が望む分野の研究に専念できるよう精神的な余裕を与えてくれました。それ以上に奨学金は、多くの人と交流し出会う機会を与えてくれました。日本の文化を学び、以前は考えもしなかったほどオープンマインドになり、良い人間関係を築くことができました。

米山記念奨学金のおかげで、留学生生活をより美しくすることができました。

レチュン キエン (ベトナム・七尾みなと RC・河北南 RC)

皆さんこんにちは。2023年の春で米山ロータリークラブの一員になって、もう一年に過ぎました。光陰矢の如し、奨学生としてたくさんの交流会、懇親会、世界大会に参加するチャンス을いただいて、様々な素晴らしい人と出会いました。今から振り返って見ると、大学4年生の私に社会の一面と接触できる貴重な経験をもらいました。同齢者と友達を作ったり、クラブ

のメンバーに親切的な絆を作ったり、どれでも学生時代における忘れられない体験です。特に印象があるのは初めて卓話をやる時の気持ち、緊張してたまらなくても、ちゃんと自分の考えを表し、コミュニケーションの能力をトレーニングしました。

留学生として母国とぜんぜん異なる風景を楽しむ一方、米山ロータリークラブの体験が最も特別であると思っています。たとえ一時的に離れても、この一年間の真実な体験と気持ちもえんえんに私の胸に刻んでいます。皆様と一緒に過ごした時間はいつでも私を支える力になります。本当にありがとうございました。これからは大学院生になって、続けて勉強します。一緒に頑張りましょう。

李 欣航 (中国・白山 RC)



こんにちは、小矢部ロータリークラブの奨学生呂子航と申します。

研究の最もストレスの多い時に、ロータリー奨学金のサポートを受け、経済的な負担が軽減され、研究に専念できました。その支援のおかげで、私は速やかに研究を進展させることができたと言えます。そのため、多

ばんば 2023.4.23

大なサポートを与えて頂いたロータリー奨学金に心より感謝しております。さらに奨学金のおかげで、次の研究段階に向けて十分な計画を立て、自信を持って取り組むことができました。これからの新学年も、私は本学の博士課程でロボット関連の研究に力を入れて臨みます。

一年を通して、クラブが主催する様々な例会に参加しました。海岸清掃のような環境意識を実感できた例会や、新年に神社で御祈禱をする伝統文化を表す新年初例会などがありました。日本文化に興味を持つ私にとって、これらの例会は非常に貴重な機会になり、それを通じて私が日本文化への理解をより深めることができました。さらに、幸い奨学生たちの丁寧に準備された発表を見る機会があり、多くのユニークな海外文化について学ぶことができ、私の見識は大幅に深まりました。

ロータリーの皆様と過ごした一年の各瞬間が私の人生の大切な宝物です。将来は、いただいたお世話になった恩返しとして、中国と日本の懸け橋になれるために力を尽くしたいと思います。

多大なご支援とご協力を賜りましたロータリーの皆様、本当にありがとうございました。

呂 子航 (中国・小矢部 RC)

*学友と奨学生の素直な気持ちが伝わるように、文章の日本語を修正せずに、原文をそのまま掲載致します。